

発行所
医療法人財団五省会西能病院
〒930 富山市五福1130
TEL (0764) 41-2481(代)
発行人 西能 正一郎

五省会ニュース

五省
一、至誠は情なきがかりしか
一、言行は恥ぢるなきがかりしか
一、氣力に盡るなきがかりしか
一、努力に憾みなきがかりしか
一、不精に負るなきがかりしか

変革期の医療に希望と活力を

一名古屋市で第41回日本病院学会



七人が参加、二演題を発表

西能理事長がシンポジウムで「中小病院経営所感」

「変革期の医療に希望と活力を―快速社会創造のために―」をテーマに、第四十一回日本病院学会は六月十三日から十五日までの三日間、名古屋市公会堂を主会場に開かれた。

一般演題二百五十八題、の嵐に揺れ動く医療界に特別講演、記念講演、シンポジウムなどで、変革の向上に貢献することを目指した。

西能病院から西能理事長（日本病院学会常任理事）ら七人が参加、西能理事長は一般演題（病院経営）の座長をつとめ、シンポジウム（中小病院の未来を語る）で、「中小病院経営所感」について一般演題では、看護部の講義直美

さんが「看護婦と腰痛のかかわり」について、同原田五月さんが「術後床上排尿への援助」について発表した。

西能理事長（日本病院学会常任理事）ら七人が参加、西能理事長は一般演題（病院経営）の座長をつとめ、シンポジウム（中小病院の未来を語る）で、「中小病院経営所感」について一般演題では、看護部の講義直美

179人中、162人が経験

「看護婦と腰痛のかかわり」協力で業務負担を軽減

看護婦の腰痛発生頻度を減らすための取り組みが、多くの看護婦に受け入れられた。

訓練で意欲が向上

「術後排尿への援助」

術後床上安静を経験した患者四十五人を対象に、排尿に関する意識調査を行った。その結果、五十人の患者を対象に、術前の排尿訓練の必要性、環境づくり、スムーズな排尿を働きかけた。

排尿メカニズム、排尿訓練への意欲づけ、体験者からのアプローチ、

が高いので実態調査を当院及び医療大付属病院、県立中央病院の看護職員について実施した。

回答者百七十九人中、百六十二人が腰痛の経験者で、そのうち腰痛を自覚しているのは十八人、時々腰痛を認めるもの百四十三人、一時的に腰痛を経験したもの一人。

予防対策としては、なるべくボディメカニクスの原理に即した姿勢で作業する。日頃の業務を協力して負担を軽減する。また日常生活の中で五分間程度の手軽な体操や軽いスポーツ、硬めの布団、カルシウムの多い食品を摂取することも必要である。

あすなろ

「絆」は「きずな」と読むが、もう一つ「ほだし」とも読む。「情にほだされる」という「ほだされる」からきた「ほだし」だ。二つとも「つなぎとめる」という意味なのにニュアンスは随分違ってくる。「きずな」といえばお互い結び合うという明るいイメージをもつ。ところが「ほだし」となると、束縛されるという暗い意味に変わる。たとえば「親子のきずな」は親子の強い縁をいうのに「親子のほだし」となると、一転して親子の縁が手かせ足かせになる場合に使う。同じ「絆」の字が、表からみれば「きずな」となり、裏からみれば「ほだし」。どちらからみるかは、その人の考え方次第ということになる。このことはいろんな場合について当てはまる。たとえは病でもそう。老人が膝や腰の痛みを持っていて、なせ治らないのかと暗い方ばかり考えていたら、いつか人生に不満を抱いて生きていく人があちよつとくらくらい痛いのには当然。ひどく痛まないように上手にやりながら人生を前向きに楽しく生きていく人もある。その方が生命をより上手に使う方法―と西能正一郎著「生命あるかぎり」（県民カレッジ叢書19）はいつている。要は心の持ち方、考え方。同じ運命、同じ人との出会いでも、裏からみるか表からみるかで人生は変わる。

- 平成三年盛夏 医療法人財団五省会
- | | |
|------|-------|
| 理事長 | 西能正一郎 |
| 常務理事 | 中永久光 |
| 理事 | 西能 竝 |
| 理事 | 住 博司 |
| 理事 | 中尾 哲雄 |
| 理事 | 米田 寿吉 |
| 監事 | 石川 実 |
| 監事 | 寛田 英二 |
| 評議員 | 稲垣 忠一 |
| 評議員 | 大上紀美雄 |
| 評議員 | 神沢 幹夫 |
| 評議員 | 河上弥一郎 |
| 評議員 | 西能 綾子 |
| 評議員 | 西能 孜 |
| 評議員 | 坂本 重一 |
| 評議員 | 笹山真治郎 |
| 評議員 | 土田 亮一 |
| 評議員 | 古沢 富美 |
- 西能病院職員一同

暑中お見舞い申し上げます

夏の訪れに

西能 正一郎

この五省会ニュースも今回が六十五号、年六回発行してきましたので、すでに十一年目を走りつております。永い間、皆様におつきあいいただきまして誠にありがとうございます。毎年夏が訪れ、終戦の記念日が近づいて来ます。すでに五十年近い歳月が流れましたが、私が今日この姿であることの起点となつた海軍兵学校の生活にそこはかない愛着を感じます。そして、どうしてそのことに少しでも触れないと夏を迎えることが出来ないような気分になるのであります。今更、戦争中のことなど理解していただく人も数少なくなり、このような話を持ち出すのは時代錯誤のように思われます。これが五省会ニュースの兵学校シリーズのフィナーレになるであろうと覚悟して筆を執りました。

人生のバックボーンに

今も愛着を感じる江田島の負けじ魂

舌に長くしがたいきびしいものであります。わづか四月でありましたが、落伍しないで耐え抜いたという経験は、その後も私の人生のバックボーンとなりました。

戦後の常識では一貧農の子が医学を志すこと自体が無茶なことでありました。経済的に耐えぬくことや、海のものとも山のものとも見当のつかない研究テーマに挑戦することにも、（俺は江田島である苦しみに負けなかつた男だ）と、自分を激励することなく、一条の光を見出すことが出来たのだ

たものは何もないようにも思えますが、拾遺編でも思っておゆるしいたきたいものであります。私が軍籍に身を置き、海軍兵学校生徒として在学したのは、昭和二十年四月から八月の終戦までであります。わづか四月余りであり、私は江田島で十七才の誕生日を迎えました。今の高校二年生と同年代であります。

未だ自立出来る年齢でもなく、思想の固まるのは時間が必要であつたと思われれるのです。が、三年生が分隊編成をして、上級生から懸けられた訓練は筆

と書いておきます。沢山の皆様方からのご援助やご激励によって三十年前には夢に見ることも出来なかつた身分不相応の病院の管理者に取まっております。ふり返つて見れば、決して平坦な道ではありませんでした。何度かは死んだつもりにならなければならぬ場面もありました。それをクリア出来たのも江田島の負けじ魂であつたと思っております。

兵学校教育は一年生で子供の躰を、二年生で母親の愛を、三年生で父親の責任感と家長としての判断力を養成するようカリキュラムを組まれておりました。私共は残念乍ら躰だけで、その後の教育を受けなまま半端で世の中に戻されました。恐らく完全な教育を受けることが出来たら、もっと別の道を歩いていたかも知れませんがそれは詮ないことです。

私も齢六十を過ぎ、日は西に傾きました。私にこのような力を与えてくれた日本国に、御礼のお返しをするにも段々時間が少なくなつて参ります。せめて私の思いを理解してくれる人が一人でも多いことを願つて止みません。

「絆」は「きずな」と読むが、もう一つ「ほだし」とも読む。「情にほだされる」という「ほだされる」からきた「ほだし」だ。二つとも「つなぎとめる」という意味なのにニュアンスは随分違ってくる。「きずな」といえばお互い結び合うという明るいイメージをもつ。ところが「ほだし」となると、束縛されるという暗い意味に変わる。たとえば「親子のきずな」は親子の強い縁をいうのに「親子のほだし」となると、一転して親子の縁が手かせ足かせになる場合に使う。同じ「絆」の字が、表からみれば「きずな」となり、裏からみれば「ほだし」。どちらからみるかは、その人の考え方次第ということになる。このことはいろんな場合について当てはまる。たとえは病でもそう。老人が膝や腰の痛みを持っていて、なせ治らないのかと暗い方ばかり考えていたら、いつか人生に不満を抱いて生きていく人があちよつとくらくらい痛いのには当然。ひどく痛まないように上手にやりながら人生を前向きに楽しく生きていく人もある。その方が生命をより上手に使う方法―と西能正一郎著「生命あるかぎり」（県民カレッジ叢書19）はいつている。要は心の持ち方、考え方。同じ運命、同じ人との出会いでも、裏からみるか表からみるかで人生は変わる。

暑中お見舞い申し上げます

- 平成三年盛夏 医療法人財団五省会
- | | |
|------|-------|
| 理事長 | 西能正一郎 |
| 常務理事 | 中永久光 |
| 理事 | 西能 竝 |
| 理事 | 住 博司 |
| 理事 | 中尾 哲雄 |
| 理事 | 米田 寿吉 |
| 監事 | 石川 実 |
| 監事 | 寛田 英二 |
| 評議員 | 稲垣 忠一 |
| 評議員 | 大上紀美雄 |
| 評議員 | 神沢 幹夫 |
| 評議員 | 河上弥一郎 |
| 評議員 | 西能 綾子 |
| 評議員 | 西能 孜 |
| 評議員 | 坂本 重一 |
| 評議員 | 笹山真治郎 |
| 評議員 | 土田 亮一 |
| 評議員 | 古沢 富美 |
- 西能病院職員一同

暑中お見舞い申し上げます

健康法の問題

63

「医の心」西・東

優しく、忍耐強く、礼儀正しく

荒廃の戦後に学んだ雄大な米国の医学

太平洋戦争が始まって暫くした一九四〇年代の前半、初期肺結核で金沢にある大学病院内科へ入院する羽目になりました。当時の結核治療は、天...

色々と良い体験を...

富山女子短大生が栄養部で実習

富山女子短大食物栄養科二年生の三人(第一班)が六月二十四から二十九日までの六日間、西能病院栄養部で実習を受けた。

看聴日記 病歴日記 今村 弘幸 (三四) 上越市安江

歌の会 ふあれい 西能病院は六月三十日、五階ホールで、日本看護協会常任理事、嶋崎佐智子さんの看護の日制定記念講演会(写真)をひらいた。

看護婦さんが黒板に書かれた歌詞を指差して歌っている。参加者は「一緒に歌って、時間をたのむのも忘れて」を合言葉に、みな楽しんでいる。

介護の苦勞を軽減 ねたきりや一人暮らしの老人の 日常生活用具の給付・貸与 老人福祉の手引

対談

地球の温暖化 フロンガス、酸性雨... 富山医科大学 富山保健医療大学 鏡森 定信氏 西能 西能 弘氏

私たちの環境は? ④

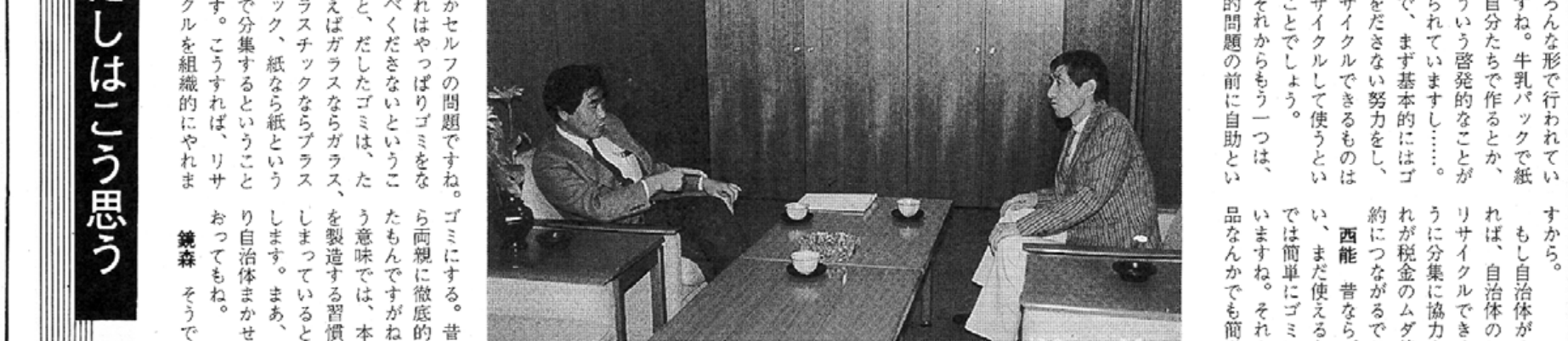
環境問題で、学生の車が近頃、もう一つ奇って、先生、バスです。重要なのは車です。自分の車か、乗せてあげましょう。

環境問題、余裕と豊かさが必要 日本はまだ中途半端な豊かさ

環境問題、余裕と豊かさが必要 日本はまだ中途半端な豊かさ 西能 西能 弘氏 鏡森 定信氏

わたしはこう思う

わたしはこう思う



「仕事から、交通事故の患者さんが多くですね」と西能院長④ 「車問題は、環境汚染と生命にかかわる怖い問題」と鏡森教授

西能 なるほど、そう思います。これは日本政府の責任なやり方だと思えます。医療とか教育とか農業なんかが、人間の生命を扱う部門です。



内も外も気持ちがいい 梨雲苑に二十九人が入苑

六月十五日に竣工式をあげた富山市吉作、社会福祉法人・梨雲福祉会(西能正一理事長)の特別養護老人ホーム「梨雲苑」(大山麓施設長)には七月二十二日現在、二十九人(男八人、女二十一)が入苑、シヨートステイには三人が利用、また併設のデイサービスセンター(バスで送迎、日曜は休み)には五人、十三人が訪れ、入浴や語らいなどで一日を過ごしている。

日課は起床六時、朝食七時四十五分、入浴やリハビリが九時から十一時まで、中食正午、十四時から十六時までリハビリや体操、夕食

十七時半、就寝が二十一時となっている。こんご午後から、お花やお茶などのクラブ活動を取り入れ、月間や年間の楽しい行事も計画している。

入苑者の感想は「二度の食事がいよいよ、風呂がきれいだし、気持ちがいい」「話し相手がないのが嬉しい」「職員の方々が親切で、やさしいので有難い」など。



入苑者の特殊入浴



デイサービスの一般入浴



手拍子で越中おわら節を
= 談話コーナーで =

施設の目的やサービスの内容はつぎのとおり、**〔特別養護老人ホーム〕**原則として六十五歳以上で、ねたきりや身体が弱い、また老人痴呆症のために、常時の介護が必要でありながら家庭で介護を受けることが困難なお年寄りが対象。**〔デイ・サービスセンター〕**在宅で虚弱な方、ねたきりの方、障害のある方などに寄りかか

お年寄りを専用のバスで送迎して、入浴、食事、休養、日常動作訓練などのサービスを提供。**〔シヨートステイ〕**ねたきりや老人性痴呆症のお年寄りを介護している家族が、病気、出産、冠婚葬祭、介護疲れなど社会的、私的理由で一時的に介護できなくなった場合に、短期間(原則として七日以内)世話する。

竣工式で感謝状
工事関係者に
竣工式は関係者や五十人が出席して神式で行われ、西能理事長、大山麓施設長はじめ工事関係者が玉串を奉げた。このあと、次の工事関係者に感謝状が贈呈された。中川建築設計事務所、林建設工業株式会社、株式会社金谷工務店、北菱電機株式会社、鈴木工業株式会社。

病院だより

- ### 六月
- 三日(八日) 梨雲苑の寮母十人が病床のお年寄りの介護実習。
 - 四日(セリーグ公式戦) 巨人×ヤクルト(県営球場)に看護班。
 - 六日(西能理事長が小杉町長寿大学(小杉戸破公民館)で「命あるかぎり」を講演。
 - 十一日(小会議室で誕生会、該当者八人。
 - 十六日(下村幼稚園父母の会(同幼稚園)で、
- ### 七月
- 二日(二十五日) 看護婦八人が一人ずつ富山医療大手術室を一日見学。
 - 三日(西能理事長が県森林水産会館(県私立高)で「医師が患者になつた話」を講演。
 - 四日(西能理事長が高志会館で「腰痛とおつきあい」を講演。主催は県漁業共済組合。
 - 九日(小会議室で誕生会、該当者十六人。
 - 十八日(末日) 第73回高校野球選手権富山県大会の救急病院に指定。
 - 二十五日(山本看護部長が県呉羽少年の家(県教委主催)で、少年団リーダーに「いつでも役立つ応急手当」を講演。

栄養メモ

六つの基礎食品を
今、私たちの食生活は糖質の摂取量が減少する一方で、脂肪の摂取量が増加し、カルシウムは不足がみ、塩分はとりすぎなど、さまざまな問題点があります。その解決のためには、六つの基礎食品の各群の食品を上手に組み合わせるバランスのよい食事を心がけることが大切です。不足しがちな野菜や芋、海藻類などを食卓にうまく取り入れるとともに、朝、昼、夕の三食をきちんととり、夏バテを防ぎましょう。上の絵は一日の食事に必要な六つの基礎食品群と摂取量(目安量)です。

1. 魚、肉、卵、大豆	2. 牛乳・乳製品	3. 緑黄色野菜
大豆製品 80g 肉・魚 140g 卵 50g	牛乳・乳製品 200g 海草類 3g 魚(しらす干) 10g 魚(しらす干) 10g	緑黄色野菜 100g
4. その他の野菜、果物	5. 米、パン、めん、いも	6. 油脂
淡色野菜 200g 果実類 150g	米 220g パン 50g めん 45g いも 50g	油脂類 20g

診療体制のご案内

休日診療 (日曜日・祝日)		平日診療 (月曜日～土曜日)	
整形外科 午前8時30分～午後5時	整形外科 午前8:30～12:00 午後4:00～7:00	整形外科 午前9:00～12:00 午後3:00～5:00 (火・金曜日は7:00)	スポーツ外来 火・土曜日 午後4:00～7:00
内科	内科	内科	神経内科外来 木曜日 午後2:00～5:00
リハビリテーション科	リハビリテーション科	リハビリテーション科	泌尿器科外来 土曜日 午後1:30～5:00
			在宅看護・診療 木・金曜日 午後1:30～4:00
			栄養指導 月曜日～土曜日 午前10:00～11:00

救急出動 OK

もし、救急車が必要でしたら、連絡して下さい。お迎えに上がります。常時2台待機しています。

通院バスのご案内

月曜～土曜 午前運行(日曜、祝日は休み)
○印は常時停留所、その他、臨時停車します。

- ① 富山駅・西町コース
丸の内 → 西能病院 → 富山大橋 → 丸の内
旅籠町 → 西町 → 桜橋通り → 富山駅 → 新富町
- ② 婦中・長沢・金屋方面
金屋 → 西能病院 → 神明 → 羽根 → 湯坂農協
友坂口 → 平岡 → 古里郵便局 → 連星駅
- ③ 呉羽・中老田・北代・田刈屋方面
畑中 → 西能病院 → 吉作 → 花ノ木 → 中老田
右坂 → 北代 → 呉羽駅 → 女子短大